

13. 第4－5回高木レクチャーについて

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。高木レクチャーをもとにした研究総説は、査読を経て **Japanese Journal of Mathematics (JJM)** に掲載されることになっています。

この趣旨に基づき「高木レクチャー」の創設が2006年3月26日(日)、中央大学で開かれた日本数学会評議員会で承認され、これまでに、第1回は京都大学数理解析研究所(2006年11月)、第2回と第3回は東京大学大学院数理科学研究科(2007年5月、11月)で高木レクチャーが開催されました。

この数学通信では第3回の報告と、第4回と第5回の予定をお知らせいたします。

第3回高木レクチャー(2007年11月23日(金)、東京大学大学院数理科学研究科)において、P. Malliavin氏(パリ第6大学)：「無限次元の群の不変および準不変な確率測度」、牧野淳一郎氏(国立天文台理論研究部)：「手作り計算天文学 —ハードウェア、アルゴリズム、ソフトウェア、サイエンス」の講演が行われました。当日参集した百数十名の参加者には予稿の冊子が配布され、その最終版の研究総説は査読後、JJM Vol. 3-1(2008年3月)で出版されました。講演のビデオは東京大学数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ、web上で一般公開しております(下記の高木レクチャーのホームページをご覧ください)。

第4回高木レクチャー(予定)

日時：2008年6月21日(土)

場所：京都大学理学部6号館301教室

講演者：大栗博司(カリフォルニア工科大学・IPMU)：「Geomery as seen by

string theory (弦理論から見た幾何学)」, O. Viro (St. Petersburg and Stony Brook)：「From the sixteenth Hilbert problem to Tropical Geometry (ヒルベルト16問題からトロピカル幾何学へ)」

第5回高木レクチャー(予定)

日時：2008年10月4日(土)－5日(日)

場所：東京大学大学院数理科学研究科
大講義室

講演者：J.-P. Bourguignon (フランス高等科学研究所), E. Ghys (フランス国立科学研究センター・UMPA), M. Kontsevich (フランス高等科学研究所), N. Nekrasov (フランス高等科学研究所)

なお、当日は各講義の概要を冊子にて配布する予定です。

高木レクチャーのHP

http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/
で最新情報を掲載いたします。

なお、JJMは各冊子の個別販売(会員割引7500円(+税375円))で日本数学会より販売しております。

(Japanese Journal of Mathematics ·
第4回高木レクチャー組織委員 小林俊行記)